

日本工業標準調査会標準部会(第31回)議事録

- 1 日 時:平成18年4月18日(火)10:00 – 12:00
- 2 場 所:経済産業省1120共用会議室 別館11階
- 3 出席者:二瓶部会長、岩井委員、大山委員、佐野委員、菅原委員、田中委員、富田委員、樋口委員、吹譯委員、前原委員、宮入委員、矢萩委員、若井委員
(事務局):松本大臣官房審議官、武濤基準認証政策課長、横田標準企画室長、江藤工業標準調査室長、岩永産業基盤標準化推進室長、瀬戸情報電気標準化推進室長、和泉標準協力調整官、平野基準認証広報室長、池森認証課長、淵上製品認証業務室長、能登企画官等

4 議 題:

- 4.1 前回標準部会(書面審議)の結果報告について【報告】
- 4.2 国際標準化活動基盤強化アクションプランの実施状況と見直しについて【審議】
- 4.3 平成18年度標準化業務計画について【審議】
- 4.4 平成18年度新規調査研究テーマについて【審議】
- 4.5 石綿関連JISの改正について【審議】
- 4.6 平成18年度工業標準化審議計画について【審議】
- 4.7 専門委員会に属すべき者の指名について【審議】
- 4.8 特許権等を含むJISの制定に関する手続きについて【審議】
- 4.9 その他

《配布資料》

- 資料1 日本工業標準調査会標準部会委員名簿
- 資料2 日本工業標準調査会標準部会(第30回)議事録(案)
- 資料3-1-1 産業基盤分野における国際標準化活動基盤強化アクションプランの実施状況について
- 資料3-1-2 情報電気分野における国際標準化活動基盤強化アクションプランの実施状況について
- 資料3-1-3 環境生活分野における国際標準化活動基盤強化アクションプランの実施状況について
- 資料3-2 国際標準化活動基盤強化アクションプラン(見直し案)
- 資料4-1-1 産業基盤分野における平成18年度標準化業務計画の概要
- 資料4-1-2 情報電気分野における平成18年度標準化業務計画の概要
- 資料4-1-3 環境生活分野における平成18年度標準化業務計画の概要
- 資料4-1-4 平成18年度における横断的な取り組みについて

- 資料4-2 平成17年度標準化業務実績及び平成18年度標準化業務計画(案)
- 資料5 平成18年度標準化のための調査研究テーマ案(新規)について
- 資料6 JISの改正について
- 資料7 日本工業規格の制定等に係る調査審議の専門委員会への付託について
- 資料8 専門委員会に所属する臨時委員の指名について(案)
- 資料9 特許権等を含むJISの制定に関する手続きについて(案)
- 参考資料1 電気冷蔵庫の消費電力量試験方法JIS改正に伴う広報活動について
- 参考資料2 新JISマーク表示制度の進捗状況について

5 議事概要:

5.1 前回標準部会(書面審議)の結果報告について

事務局から、資料2に基づき第30回書面審議の結果が報告された。

5.2 国際標準化活動基盤強化アクションプランの実施状況と見直しについて

事務局から、資料3-1-1～資料3-2に基づき、国際標準化活動基盤アクションプランの実施状況と見直しについて説明があり、以下のような意見があった。

(岩井委員)アクセシブルデザインに関して、日中韓の共同提案があったとのことだが、どういう状況において共同提案が可能なのか。電気電子分野においては、個別製品で競合しているために、アジアと利害関係になる場合についてはなかなか共同提案は困難とおもわれるが、共同提案が可能な条件とはどういうものかについて、他の事例などがあれば教えていただきたい。対立することは避けたいと考えており、協力関係をどうしたら構築できるかについて政府のご指導をお願いしたい。

(事務局)例えば、アクセシブルデザインの分野等、日本がリーダーシップをとっている分野については、共同提案がやりやすい。競争している分野における共同提案のあり方については、今後の重要課題と認識している。現在の日中韓の標準化会議という枠組みを継続し、日本がリーダーシップを取りながら取り扱う範囲を拡大していくことが、今後の共同提案につながるものと考えている。

5.3 平成18年度標準化業務計画について

事務局から、資料4-1-1～資料4-2に基づき平成18年度標準化業務計画について説明があり、以下のような意見があった。

(若井委員)資料4-1-4の2頁に介護保険制度による公的給付制度対象品目に関してJIS化を実施とあるが、どのような方針か。また、製品安全体系について

検討を行うとあるが、最終的に何をめざすのか。

(事務局)福祉用具の標準化については、既に介護保険制度の対象となっている品目に関して、技術基準を整備し、安全な福祉用具の提供を目指すということ。

(若井委員)JISの観点から今後、介護保険制度の対象品目が拡大していく際の戦略はあるか。

(事務局)福祉分野についてはJIS化が遅れており、既に対象になっている品目についてのJISの整備を第一に考えている。今後の品目の拡大化への対応については今後の検討課題であり、ニーズのあるものから始めたいと考えている。製品安全規格体系については、電安法等法体系との関係をまず整理することが重要と認識している。

(岩井委員)今回、BCP、CSRについてふれられていないが、重要なテーマなので関心を持っており記述していただきたい。

(事務局)ご指摘の分野については、JISCの適合性部会にて扱っている話である。今後、総会の場などで、標準部会と適合性評価部会の役割について見直していきたい。

(樋口委員)標準化教育プログラムについて、今後どのように普及していく考えか。このプログラムは、一般の人が利用できるのか。

(事務局)標準化教育プログラムの普及については重要だと考えている。はじめに、機械工学用のプログラムを作成したが、より広い分野において利用できるように編集したものを日本規格協会のホームページ等にて公開し、利用してもらうことを考えている。

(田中委員)家電の多機能化の進展により、最近では消費者にとってかえって使いにくいと思われる家電も市場に出回っている。使いやすさの視点からの標準化が今後重要だと考えている。

(事務局)JISX8341シリーズは、使いやすさの視点からの標準化であるといえる。この件に関しては、消費者のニーズを把握しつつ、継続的な議論が必要だと考えている。

(菅原委員)東洋と西洋とでは、標準化の概念そのものが違うと感ずることがある。標準化とは何か、という基本的な概念の標準化が必要ではないか。

(事務局)標準化の概念の標準化については、今後の検討課題である。

5.4 平成18年度新規調査研究テーマについて

事務局から、資料5に基づき、平成18年度新規調査研究テーマについて説明

があり、異議無く了承された。

5.5 石綿関連JISの改正について

事務局から、資料6に基づき、石綿関連JISの改正について説明があり、異議無く了承された。

5.6 平成18年度工業標準化審議計画について

事務局から、資料7に基づき、平成18年度工業標準化審議計画について説明があり、異議無く了承された。

5.7 専門委員会に属すべき者の指名について

事務局から、資料8に基づき、変更委員の説明があり、異議なく指名された。

5.8 特許権等を含むJISの制定に関する手続きについて

事務局から、資料9に基づき特許権等を含むJIS制定に関する手続きについて説明があり、異議なく了承された。

(田中委員)WSC の場における特許の取り扱いに関する議論において、日本が積極的に取り組んだことを評価したい。RAND の取り扱い等まだ複雑な問題が残っている本件について、引き続き努力をお願いしたい。

5.9 その他

(佐野委員)家庭用塗料でJIS規格を満たしていないJISマーク製品が見つかった問題について報告がなかったが、信頼性確保のためにも、なぜ問題が起こったのか、標準部会においても説明する責任がある。

(事務局)まだ、全体像がはっきりしていないため、報告しなかったが、ご指摘を踏まえて、ホームページ等で情報公開するなど積極的な情報提供につとめる。

・次回の開催について

次回標準部会は、夏頃を予定し、日程を調整することとされた。